

学 位 名	博士（社会福祉学）	研 究 科 攻 専	社会福祉学研究科 社会福祉学専攻
学 籍 番 号	G17911205	氏 名	WEI XIAOYU
学 位 論 文 題 目	中国での社区福祉展開の現状分析と地域福祉論に関する研究 成都市を事例に		
審 査 の 結 果	合格 ・ 不合格		
学 位 授 与 年 月 日	令和 3 年 3 月 18 日		
審 査 委 員 会	【審査委員長】 尹 文九 教授 【審査委員】 先崎 章 教授 【審査委員】 田中 喜美子 教授		

### 《論文審査の結果の要旨》

上記の論文は中国での社区福祉展開の現状分析と地域福祉論に関する研究を主題にし、副題として中国で一番社区活動が円滑に行われている「成都市」を事例に選び、研究した論文である。著者は昨年2月に本審査を合格したが、口頭試問で指摘された内容を中心に1年間添削し、今回再度の本審査と口頭試問を行われたのである。

審査の基準は文部科学省の一般的な博士論文審査に関する基準と本学や一般の基準と昨年口頭試問で指摘された内容などの修正や添削ができたのかを中心に審査が行われたがその結果は以下の通りである。

1. 本論文は第8章に構成されているが、構成については序論（序章）、本論（2章から6章）結果と考察（7章）、結論（8章）になっている。これについては事前審査の時も修正などに関する指摘はなく、博士論文として適切に構成されていると思う。また、論文の構成のみならず、内容においても大幅な修正が行われ、大きく改善されたと評価された。
2. 中国の高齢社会の問題解決の対策の一つとして、中国政府は9073政策を強調しているなかで、今後の福祉分野において社区の役割はますます重要になってくることを考えると、日本の地域福祉（特に、社会福祉協議会）の内容を踏まえながら、中国の社区の現状と課題や改善点について明らかにした点とともにこうした研究の試みが初めての研究という点で社会的な意義は大きい点も評価された。
3. 実証研究を行う以前に関連する膨大な文献研究を検討し、その内容を論文と関連させながら述べられた点はテーマと関連した知識（内容）については十分に理解されていることやまた、研究者としても自立して研究活動を行う能力を持っていると評価された。
4. 本論文は3番でも言及したように、3人の審査委員の40項目程の指摘や質問を含めて、例えば、自然ではない表見、図、表や目次付け、引用と自分の意見を区別して記述、目的と結論の一致などについて修正を求められた。これに対して全体の論文において645か所（言葉、接続詞、前置詞など）、40文字以上の文章の修正が132か所、200文字以上の段落の書き直しが51か所で、全体の論文の内容が大幅に修正され、それによって改善されたと考えられる。したがって、上記の審査結果を踏まえて、社会福祉学博士論文として要件をクリアしたと評価された。
5. 多くの箇所の文章の連結や言葉の選定、不自然的な表現などが多くみられるとの指摘もあったが、その指摘も今回の論文ではほぼ修正され、博士論文としてふさわしい文章になっていると評価された。
6. 研究の方法論についても審査委員から指摘があったが、今回の論文では研究の方法論を修正することによって研究の方法と目的がより明確になったという評価があった。

以上のことを踏まえて慎重に考慮した結果、本審査においても3人の審査委員が全員合格という結果であったが、今回の口頭試問後の審査においても異議がなく、3人とも全員合格である意思を表明した。したがって、上記の論文は最終試験である口頭試問において合格である結果になったことを報告する。